

相談ネットワーク通信

No.1

1990.9.15(土)

子育て・教育なんでも相談ネットワーク 岡山市丸の内1-5-13
TEL.(0862)26-0110

ネットワーク通信 発刊にあたって (1)

私たちが背負ったもの

金光洋一郎

「子育て教育なんでも相談ネットワーク」が発足して一か月が経った。平均一日三件ぐらいの相談がかかってくる。

子供の悩み、親の悩み、共に多く、また深刻化している。現状では、こういう窓口が開かれると待っていたように次々に相談がある。事務局を常駐して相談に当たるといふことも信頼感を得ることになっていると思うが、相談員としてはなかなかの苦勞だと思ふ。そこでボランティアの応援がほしいのだけれども、実は、ここからの道が険しい。

善意と熱意の人は少なくなないし、

相談を望む人も絶えることはないから、たしかに相談は盛んになるのだけれども、登校拒否にしろ、非行にしろ、また幼児のしつけにしろ、事態が一発で好転し、一挙に問題解決に至るなどというケースは極めて稀で、ほとんどは慢性の病気のように長い時間をかけて、根気よく対応していかなければならないものである。

現状では悩みを抱えている人自体がまるで速効性の注射かなにかのように、直ちに好転する手段を求めていく傾向があるし、相談を手伝おうというボランティアの相談員もそういう長期間の継続相談の自覚や経験のある人が少ないのではなからうか。

相談ネットワークを盛りたてて本場に役に立つ組織に育てていくには、相談をする人、受ける人、共に時間をかけて語り合いながら、自分自身を成長させていくこととすることがこれからの基本的な姿勢にならなければならぬと思う。

悩み苦しんでいる子供、それを悩んでいる親、すべて私たちの友であり、仲間である。その背負っているものを分けあって歩いて行こう。

岡山カウセリング研究会会長
相談ネットワーク代表世話人



ネットワーク通信 読者欄 にあたって (2)

子供と同じ目の高さで

横山 茂生

今からふた昔程前に「恐るべきワオ」という言葉がマスコミにもはやされました。そして最近では「新人類」「登校拒否」「学校嫌い」等々の言葉が、耳から目からとび込んできます。そして随分昔から「今どきの若い者は」とよく言われてきました。

常に大人の立場から若い人達を評価するこのような見方は、上から下への一方通行的なものでした。このように一方通行的、評価的、管理的な、若者への見方は、一面ではその時代時代の若い人達へのある種の期待とそれを裏切

られないようにといつ気持ちが、大人達にあることは否定できません。しかし、その大人達の期待も、いつの時代でもそれは大人の立場からの一方的なものでした。その結果は何も若者達に実りきもたらさなかったと言っても過言ではないと思います。

最近、話題となっている偏差値教育や校則問題などの管理的評価的教育が、結果的には若者特有の自由奔放さを抑圧している点は、多くの人の指摘されるところです。このような管理的評価的雰囲気は耐えられなくなった子供達は

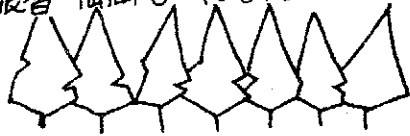
登校拒否あるいは不登校という選択をしいられていると言えます。

このような現状を看過できず結成されたのが「子育て教育なんでも相談ネットワーク」です。このネットワークの新しい活動が、従来の上から下への一方的評価的態度でなく、子供の立場に立って、子供と同じ目の高さで、子供と一緒に悩み、考える姿勢をぜひとも貫いてくれるものと期待しています。われわれの周囲から、ひとりでも孤独な世界で苦しんでいる子供と、その親御さんを少なくしたいものです。

川崎病院精神科 (心療科) 部長
相談ネットワーク代表世話人

集中募集

入会は、事務局へ送付 もしくは郵便振替 岡山 0-10898



(会費 1口 1000円 何口でも可)

相談機関の紹介

訪問記とメッセージ

県下の相談機関のいくつかを訪問しました。その訪問記とそこからのメッセージを紹介します。

あすなろ学舎

高宮中学校

〒709-24 御津郡加茂川町高宮三三六
TEL (08673) 411505

メッセージ

稲田 弘重

標高三六九メートルの山頂にある学舎は、緑に囲まれ四季折々の花の中に素朴なたたずまいを見せています。

昨年四月登校拒否児童生徒の受け皿として発足したあすなろ学舎です。あすなろは成長の逢い木ですが、数十年経てば檜も追いつく成長ぶりです。

二年や三年のブランクはあっても先々追いつくようにたくましくなって欲しいとの願いを込

めての名付けです。

このすばらしい大自然の中で伸び伸びと生活体験を主とした学習を行い、心身共に健康を取り戻させるよう指導しています。『あすなろ学舎』は、旺盛なる『やる気』を養うことを目的としています。

この世の中で自分というものはただ一人です。誰にも真似の出来ない自分自身の生き

方を考えるべきです。

親の敷いたレールの上だけを歩く人生は味気ないと思えます。今日も『あすなろ』の子供達は元気に明るく頑張っています。楽しい笑い声がこだましています。

(あすなろ学舎校長)



あすなろ学舎玄関

相談機関の紹介——訪問記とメッセージ——

津山市教育センター

鶴山塾

〒708 津山市山下八五―四

TEL (0866) 222-2533

お父さん お母さん!

おうちで、解決できない悩みができたとき

○お子さんのこと……

○お子さんの友だちのこと……

○学校のこと……

○そのほか、どんなことでも……

電話したり、話しにきてください。

小学生、中学生のみなさん!

○友だちのことで、なやむとき……

○先生にも言えず、つらいとき……

○家の人にわかってほしいことがあるとき……

○そのほか、どんなことでも、自分でなやみが解決できないとき

電話したり、話しにきてください。

津山市が、青少年健全育成事業の一環として、学校、家庭又は社会生活においてなやみを持つている子どもたちや、その保護者などの相談や助言にあたることを目的に昭和五九年十月に開設したセンターである。

そのセンターは、「津山城下町お城の松は……」と唄われた、そのお城の一角に、風趣のある、落ちついた、たたずまいを見せてる。子どもたちは、面接に訪れるとまず、庭園を見て「ホッ」とするといふ。手入れのよくできた樹々、下草、荒れた心がなごむらしい。

入母屋風の本館は、古い伝統の「旅館」の面影をとどめ、大小の室々には、子どもたちの「居場所」が、たっぷりと用意されているように見受けられた。

専任の相談員のほか、特別相談員として、専門医、大学の先生、学識経験者が、相談にあたっている。昼食は、子どもたちと職員がつくり、なごやかに食べながらの会話が、信頼を深いものにするようである。

津山市教育センター
鶴山塾
相談日は、
月曜日～土曜日
(日曜日、祝日、
土曜日午後2時～)

時間 は、
8時30分～17時

(難波記)

テル教育研究所

倉敷市玉島中央町3-6-17
TEL(08652) 6-4626

相談機関の紹介

訪問記とメッセージ

八月九日、テル教育研究所・教育相談所」を訪問しました。テルとは Tokushima Education Laboratory の頭文字だとのこと。これは、田中和裕先生（元小学校教員）が落ちこぼされた子供たちの基礎学力回復のためにつくられた学習塾（習塾寺小屋）です。塾は、成人された二人のお嬢さんの勉強部屋が教室になっており、

高校二年から小学校二年までの子供達二十数名が通っています。私が訪問したときは、中学三年生の男子二人が英語を学んでいましたが、一人から多くても五人位までが単位の小グループ学習で、週に二〜三回、小学

生は国・算、中・高生は国・数・英を中心に指導されています。従って、先生にとっては日曜日以外は、15時から21時30分までぎりぎりつまった時間割となっています。

勉強のあいまには、ロックと平和と自由について話があったり、グループで水泳やスケートに連れて行ったりして、子供とともに遊んで信頼関係を深める努力もされているそうです。

また、父母向けの通信「てらこや」を発行されており、家庭教育のあり方などについても考えてもらったり、夕食をともしながらの父母懇談会も時々開いておられるとのことでした。

奥さん（小学校教員）の協力を

事務局で お買ください。

- あなご学舎の 稲田校長先生は ネットワークの会員で相談員です。学舎の1年間の記録「登校拒否 輝く瞳の子」が好評です。 ¥2,000
- 金光洋一郎先生の 童謡集「お花はたけ」が、ルビのみです。 ¥1,800

得ながら、先生自身が、楽しそうに教えておられますから、きっと子供達にとっても楽しい塾だろうと思います。

先生は、また、ことばの教室々について造詣が深く、相談に応じておられます。

（八木原記）



相談機関の紹介

岡大附属病院
「田心春期外来」
TEL (0663) 231751

8月9日午後4時、岡山大学附属病院精神科の塚本千秋先生を訪問、「思春期外来」とはどういう所かについて話を伺いました。

「思春期外来」の診察を受けた人は、毎週木曜日の午前8時から10時までは受付してもらって、「思春期外来」の責任者である青木省三先生の診断を受けてください、このとき午前・午後にはわたると思つて来て欲しい、とのことでした。

訪問記

初診以後は、毎週木曜日の午後1時から4時まで、8人の医師団により治療が行われるそうです。

私が感動したことは、先生方が、治療が済んだそのあと、患者の病状を報告し合い、協同で分析し、よりよい治療をめざして学習を続けておられるということだ。

普通の教育相談だけで解決できそうもない思春期の心。病いについては、岡大附属病院の「思春期外来」へ行かれることをお奨めします。優しく親切な先生方が、治療の方向を示してくださるものと思います。

(八木原記)

とメッセージ

あすなる学舎 訪問記

登校はくてもできない子どもたち、社会問題となっている「登校拒否」「不登校」の問題に正面からとりくんでいるのが「あすなる学舎」である。

家庭と学校との間に存在する一過性のこの学舎は、旺盛な「やる気」をやることを目的としている。

標高369メートルの山頂にあった、御津郡加茂川町高富の旧高富小学校を活用して、昨年4月15日に開校式を行った。

子どもたちは、大自然のなかでのびのびと生活体験を主とした学習を行い、心身ともに健康をとりもどし、ふたたび登校できるようになった時、在学、学級に復帰するのである。

(難波記)

学舎内には、第一学習室、第二学習室、図書室、卓球室、娯楽室などがあり、ピアノ、オルガン、エレキギターなど自由に使用できるように配慮してある。

その他、町営の総合グラウンド、体育館、テニスコートなど幅広く活用して、子どもたちが、自らの可能性に挑戦して、自信がもてるように指導しておられる。

稲田校長さんのいわれるように「この世のなかで、自分というものは、ただ一人です。だれにも真似のできない自分自身の生き方を考えるべきです。」

まさに子どもたちが自立の階段を、一歩一歩、踏みしめ、踏みしめ、立ちどまり、あとをふりかえり、また一歩と登っていく、そのプロセスとしての「登校拒否」「不登校」を、しっかりと受容され、変容の途をさぐられている学校の姿がそこにある。

「不登校」の問題で悩んでいる お母さん! お父さん! 励まし、支え合いまよう。

岡山不登校問題を
考える親の会が
よびかけです。

主な活動

1. 親の交流会
毎月1回 - 第4土曜日
午後1時30分 ~ 3時30分
(場所) 交流アウサ
岡山市丸の内1-12-13
随時、子供の対象年齢によって交流
会を、小・中・高以上にわけて行
います。
2. 「不登校」に関する情報の収集・情
報の提供
3. 会ニュースの発行
4. 鳥城高校訪問

「不登校」の問題で悩み苦しんでいる親
同志が、手をとりあって、同じ困難を乗
り越えるために励ましあい学び合う場と
して、「岡山不登校問題を考える親の会」
が、今年二月に結成され活動しています。
当事者である子供はもちろん、親も孤立
し苦しんでいる状況が多くみられます。
横のつながりを持ちにくい今、いちばん
苦しんでいる子供達のために、互いに励
まし合い支え合いまよう。

また充足したばかりで、交
流会が主な活動となってい
ますが、これからは、学習
会、見学会、子どもの居場
所づくり、各地にある「親
の会」との交流等もしてい
きたいと思っています。ま
たこの会の趣旨に賛同し、
個人としてまたは専門家と
して会の活動を支援してく

事務局は.....
 ・岡山県精神保健センター内
 岡山市古京町1丁目1-10-101
 TEL. (0862) 72-8835
 「岡山不登校問題を考える親の会」
 世話人代表 水田 妙子



ださっている方々に準会員
として参加していただいでい
ます。年何回かは準会員と
の交流会、勉強会を開催し
たいと思います。
悩んでおられる方、一度
話してみませんか。話をす
る中から、親同志の仲間づ
くり(ささえ合い)ができ、
それを通して親が家の中で、
地域の中で安定し、その中
で子供が...何が生まれ
てくるのでは。
なお事務局は、当面の間
「岡山県精神保健センタ」
内においています。連絡は、
上記のところまでお願いし
ます。

緊急報告

やっと我ら子供たちが集まる場所ができました。本当に待ちに待ったという感じですね。できたからには、「又を集めなければ」ということで、これを書いているんですが、こういうことをするのは慣れてないんで、これでみんな集まってくれるかどうか心配で心配で、

簡単にいえば、子供の、写真による、子供のための場所にしたので、子供がこないとなんにもならないんです。皆さん、どうか、暇な人、話し相手がいっぱい、何かやりたいことがある人、勉強に燃えたい人、家でどうもできない人、皆さん来て下さい。

PS. 私は水田有紀^{あり}といいます。15才です。私の家の電話番号を書いておきますので、ご連絡下さい。

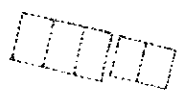
(0862) 76-8962

子供たち

からの

メッセージ

学校に行けなこい
仲間のあやみ



なやみ、よろこび。

いかり、くるしみ……なんでもいいです。

子どもたちの声を、事務局までおよせください。待っています。

なんと……常駐相談事務局員の2人は、 このひと……です。

そのひと)

八木原藤義さんは……

この春、県立笠岡商業高校を退職された八木原藤義先生の堂々たる体軀・鋭い眼光は「厳父」の名にふさわしく、正義をつらぬく激しい情熱を感じる。また、白髪(?)に手をやりながら教育実践・教育理論を訥々と語る姿は「好々爺」を思わせ、温かい愛情を感じる。



先生は10年程前から「高校生の自立と家庭の問題」と自らのテーマとし、研究・実践を続けてこられた。――社会環境の変化の中で子どもたちは本当に苦悩している。その時、教師は、父母は、学校はどうしたら良いのだろうか。そもそも私たち「大人」が真に「自立」した存在といえるのだろうか。――そうしたテーマの下に先生の笠岡商業高校での「理想の学校をめざす」実践があったと思う。

今、教育相談ネットワークは先生を得て、地域にとってますます重要な存在となっている。

―― 細川 公之 ――
(県立岡山工業高校教諭)

学習会のお知らせ

「相談ネットワーク」主催 参加費 1,000円

・とき 11月23日(金) 勤労感謝の日
9:30 ~ 16:00

・ところ 労金会館(岡山市津島西坂)

・午前は……講師 『いじめ・不登校・非行と子どもの自立』
―― 竹内常一氏 (国学院大学教授) ――

・午後は……ポジウム 講師 竹内常一氏 (国学院大学教授)

常駐相談事務局員の

そのひとり

難波 一夫さんは……

難波先生を、ご紹介する私たちは、昨年高松農業高校で先生に簿記を教えてもらっていました。

「難波先生はどんな人ですか」とたずねられたら、私たちは「それは、でっかい白い顔と目の覚めるような大きな声、そして決してこわくはないけど迫力のある顔」とまず答えます。

次に言いたいのは、誰もが「あの先生の授業はよくわかるし楽しい」ということです。他の授業では、ワイワイガヤガヤしている人たちも先生の授業ではとても真面目にしていました。それに、忘れものをする人が少な



生徒といっしょにVサイン。

いのです。そのわけは、先生の教え方がとても上手で、もし授業がわからない人がいたら、みんなに応援をさせたり、わかるまでとことん教えてくれたりするからです。だから、この授業の時は、みんなやる気をだしてがんばっていたのです。時々してられるいろんな話も、みんな楽しみにしていました。

クラスのみんなが先生のことと腹を立てたのは一度だけです。それは、先生が退職するときかされた時です。先生には、学校をやめてほしくなかったからです。他のクラスの人ものがっかりしていました。

私たちは、難波先生は学校をやめられても「普通の人」にはならないだろうと思っていました。ビラを見て、26-0110をまわしたら「ハイ、こちら相談ネットワークです」と、あの大きな声が聞こえてきました。「やあー本当、難波先生じゃわ」と思わず口に出してしまいました。そして「学校をやめられて、さみしいけれどこのような仕事をされるのなら許せるかな」と今は思っています。それに、26-0110をまわせば

いつでも先生と話ができるから。

最後にひとつだけ難波先生に注意します。

「先生、電話口であまり大きな声を出さないように。はじめての人は、こわがって電話を切ってしまうよ。」

(簿記を教えてもらった生徒)



子育て教育なんでも
相談ネットワーク

- ▷ 9月なかばに「残暑のお見舞い」を申しあげると、なんとなく、どこかおかしいですね。
- ▶ 聞所は、正味40日ばかり、100件近い相談が寄せられています。なかには何回となくかけてくださる、様子を知らせていただいたり、時には世間はなしもできるような間柄にもなりました。
- ▷ しんどいなかで、なんとかがんばって、見通しをもちたいと、電話のむこうのお母さんの声が、胸をめつけます。私たちにできることがどれだけあるのか、時には無力感におしひがれて、電話をおきます。

相談状況報告

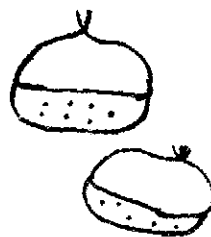
7月23日～8月29日(日祭日・8/13～15を除く)

	幼児		小学		中学		高校		大学		社会人		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
不登校			2	1	1	2	8	5					19
非行・問題行動					2		2	1					5
しつけ・勉強					3	2	3						8
学校の指導への不満						1	1	3					5
中退生の進路							2						2
男女交際						1		1			2		4
子育て		1											1
その他				1						1	2	1	5
計		1	2	2	6	6	16	10		1	2	3	
合計	1		4		12		26		1		5		49

▶ 1960年ごろにはじめて聞いた「登校拒否」

のことばが、21世紀までには死語になつてほしいもの。いやなくすために、みんなを努力したいものです。

▷ 9月はじめ発行予定にしていた「通信」ですが、遅くなり申し訳ありません。(ナ)



相談案件数・・・49件

相談延件数・・・67件 (TEL・・・62件 面談・・・5件)

機関等協賛先・・・鶴山塾・津山児童相談所・あすなろ学舎・玉島教育相談所・岡大思春閣外来
教育センター・浜神保健センター

登録会員数・・・187名268口

賛助会員数・・・16団体95口

登録相談員数・・・45名

*会員・賛助会員名簿は次号より報告します。

●ご寄付ありがとうございました。
 ・トマト銀行(10万円)・林友の会(10万円)
 ・荒木様(1万円)井上様(5千円) 金光洋一郎様(書籍)
 ・三宅文子様(書籍)・秋吉先生のご遺族(書籍)

平成2年(1990年)7月22日 日曜日

校則めぐり活発な論議

岡山でシンポジウム

岡山県下の教師や医師は個人により子育てや教育などで悩むネットワーカーが、このほど結成され、その成果に「今子供たちは」のテーマでシンポジウムが開かれた。神戶女子高校進学死事件のあった後だけに、学校の管理運営、校則をめぐる活発な論議が展開された。パネリストは岡山市立南小学校(岡山)行司校長(藤原啓己)、津山南小学校(津山)校長(藤原啓己)、山口県立岡山南高等学校(岡山)校長(藤原啓己)の各氏。

人権上問題多い 改正へ幅広い声生かせ

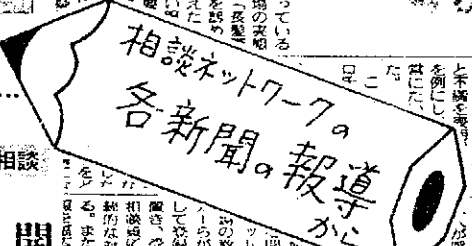


シンポジウムは四氏の朗読が中心で、本校校則について、提言が始まった。藤原氏は、経験者としての経験から、校則の重要性を述べ、その一方で、校則の多岐にわたる内容が、その多くが人権上問題が多いと指摘した。また、校則の改正には、幅広い声を生かす必要があると述べた。

子育て教育なんでも相談

ネットワーカー元教師二人応対

子供の教育をめぐる悩みや疑問の相談に、岡山県立南小学校(岡山)の元教師二人が応対する「子育て教育なんでも相談」が、このほどスタートした。相談は、岡山県立南小学校(岡山)の元教師二人が、このほどスタートした。相談は、岡山県立南小学校(岡山)の元教師二人が、このほどスタートした。



相談ネットワークの報道から各新聞の報道。この取り組みは、教育界だけでなく、社会全体に注目を集めている。

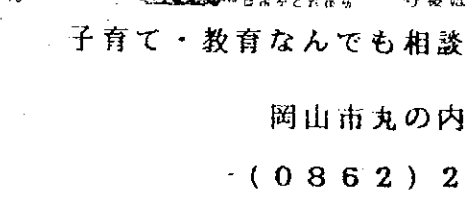
子育て相談応じます

7/6 結成総会 教師らネットワーカー

教育界の問題は多岐にわたるが、中でも子育てに関する問題は、多くの教師や保護者に悩ませている。このたびは、岡山県下の教師らによって「子育て相談ネットワーク」が結成された。

開設して3週間 子どもたちの心とちえ

「子育て教育なんでも相談」が開設して3週間が経ちました。この間に多くの子どもたちが相談を受け、心とちえを育んでいます。



八木原 誠哉さん (70)



子育て教育なんでも相談

子育て教育なんでも相談の活動内容や、相談者の声、スタッフの取り組みについて詳しく紹介しています。

子育て教育なんでも相談

子育て・教育なんでも相談ネットワーク
岡山市丸の内1-5-13
(0862) 26-0110